

恩徳讃ものがたり

海谷 則之

序―「恩徳讃」とは……………	5
仏教讃歌「恩徳讃」の誕生……………	7
和讃のなかの「恩徳讃」……………	17
「身を粉にして」「ほねをくだきても」……………	28
報恩感謝の生活……………	37
無常の思いを超えて……………	49
あとがき―後鳥羽上皇配流の地を訪ねて……………	60

『浄土真宗聖典（註釈版）第二版』は『註釈版聖典』、『浄土真宗聖典七祖篇（註釈版）』は『註釈版聖典（七祖篇）』と略記しております。

表紙イラスト・挿絵／徂徠匡男
裏表紙／本派本願寺ハワイ別院

如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

ほねをくだきても謝すべし

（『正像末和讃』、『註釈版聖典』六一〇頁）

わたしたちをお救いくださる阿弥陀仏の大いなる慈悲の恩徳と、
教え導いてくださる釈尊や祖師がたの恩徳に、身を粉にしても骨
を砕いてでも、深く感謝して報いていかなければならない。

（『浄土真宗聖典 三帖和讃（現代語版）』一六三頁）

序―「恩徳讃」とは

「恩徳讃」は、親鸞聖人（一一七三―一二六三）が作られた和讃（和語の讃歌）の一つですが、そのなかでも浄土真宗を代表する和讃ということが出来ます。

近代にはいると仏教讃歌として歌われ、とくに澤康雄（一八八八―一九三二）の作曲によるものや清水脩（一九二一―一九八六）の作曲によるものが、よく知られています。今日では、寺院での法要や法座、宗門関係学校での各式典で歌われ、それだけではなく、宗派を超えて広く日本の唱歌としても紹介されているのです。

では、この仏教讃歌「恩徳讃」は、いつ、どのような経緯で作られたのでしょうか。また親鸞聖人は、どのような思いでこの和讃をお作りになり、何を伝えようとされたのでしょうか。そして、わたしたちはこの和讃をどのようにいただいたらよいのでしょうか。このようなことについて尋ねてみたいと思います。

仏教讃歌「恩徳讃」の誕生

アメリカ・ハワイの地で

ハワイのホノルルには、白亜はくあの美しい本派ほんば本願寺ハワイ別院の本堂がありません。平成二十九（二〇一七）年九月に、ハワイ別院落成百周年開幕記念法要が、専如ご門主ご臨席のもと、盛大に営われました。この建物は、いまからちょうど百年前の大正七（一九一八）年に、開教二十年を記念して新築されたものです。この年の八月三日から九日間にわたって布哇ハワイ別院新築入仏法要が盛大に勤修ごんしゅうされました。この法要を記念し、七月十日に本派本願寺布哇開教教務所文